

愛知サークル7月例会報告

2020年7月19日（日） 名東小 参加：6名

I 文学教材の追求

「だれにあえるかな」（5・6年）

（1）音読

（2）教材解釈の検討

教材解釈を提案する際、先行例やサークルの解釈等を参考にしたとしても、そのあと自分がこの教材にどう向き合い、どう格闘したかが問われる。そこで、自分なりにどういう解釈をもって授業に臨むかということで、解釈の甘さがみられる。

<2段落をさらに追求>

「きょうは、だれに あえるかな。たのしみ たのしみ。」

きょうは・・・「は」は、それより後が新情報

だれに・・・会える前提。対象として取り上げる人について、名前や実態が今は分からないが、後で分かる。

（だれか・・・どの人ということは特に決まっていな
い。）

あえるかな・・・会うことができる。（会うとの違い）偶然性。

たのしみ たのしみ・・・何かいいことないかなと期待する事柄。その期待が繰り返し表現によって大きいことが分かる。

（3）記録・映像検討

- ・自分の解釈をベースにもっているのは当然であるが、どうしても引っ張りがちになる。
- ・子どもの解釈で立ち止まり、一緒に格闘することも必要である。
- ・子ども同士の考えの響き合いがある。学級の雰囲気がとてもよい。
- ・教師に向けて発言するのでどうしても、TCTCとなる。TCCCC・・・にしていきたい。力を子どもにつけていきたい。

「走れ」（4年）

「おしりが、すわっと軽くなる。次のしゅん間、体からみついていたいろんな思いが、するするとほどけていった。」の追求。

からみついた（・・・何かに絡んで、容易に離れない）いろんな思いが、するするとほどけていった」のは、お母ちゃんとけんじが同じ場所から声援を送ったからではないか。バラバラだった家族が、二人の声が背中にかぶさることによって、「思わず、ぎゅんと足が出た。」のだ。

⑲「体が重い。

⑳体がどんどん重くなる。

と、いていたのが、「おしりが、すわっと軽くなる。」に、変化した。

「いろんな思い」とは、何か。どんな思いがからみついていたのか。

⑲（「わたしだって・・・」）の思いか？1年前からの思いか？これは、並列か、違うか。

①の「ゆううつ」は、足が遅いという心配事が原因。相当のコンプレックスになっている。

「ごんぎつね」(4年)

初めて本教材に取り組む会員が感じた「変だ。おかしい。」を確認物してから、全員で一場面から、中心人物であるごんの「変だ。おかしい。」言動がある段落を探していった。



前半は、③。いたずらしかしないのは変だ。よっぽど何か理由がある。

後半は、意見が割れた。



②②



意見が、割れた。

1時間ほどでは、問題見つけすら十分できなかったので、夏休みの解釈道場で取り組む教材とした。

Ⅱ 「表現教材」の追求

【図工】

「レース編み」4年

・何を目的とするかが、大事。これは、筆先を使うことも狙っているから、塗り込まないで線だけで描くようにさせたい。

「インゲンマメ」5年

・注意力が散漫になるので、葉っぱは1枚だけ、多くても2枚までにするとよい。

「運動靴」5年

・靴は片方だけでよいといったにもかかわらず、両方描いている子どもがいる。片方にもっと注意を集中させるためには、どんな声掛けが有効か。